

抗D人免疫グロブリン製剤を使用される患者様とご家族の方へ



Rh式血液型不適合妊娠と 抗D人免疫グロブリン製剤

【監修】九州医療科学大学 学長 池ノ上 克 先生

もくじ

Rh式血液型不適合妊娠とは？	1
抗D人免疫グロブリン製剤には どのような効果がありますか？	2
いつ抗D人免疫グロブリン製剤を注射しますか？	4
抗D人免疫グロブリン製剤を注射した後に 気をつけることはありますか？	5
抗D人免疫グロブリン「JB」の安全対策は？	6
抗D人免疫グロブリン「JB」を注射された方には、 「血液型記録カード」をお渡ししています。	8

Rh式血液型不適合妊娠とは？

赤血球の血液型にはABO式(A型、B型、O型、AB型)やRh式などがあります。

Rh式血液型にはD、E、C、c、eなどいくつかの因子があり、このうち「D」の因子を持つ場合を「Rh(+)」(アールエイチプラス)、持たない場合を「Rh(-)」(アールエイチマイナス)と言います。

日本人でRh(-)の人の割合は約200人に1人くらいで、欧米に比べると非常に少ないです。

Rh(-)のお母さんがRh(+)の赤ちゃんを妊娠することを「Rh式血液型不適合妊娠」と言います。Rh式血液型不適合妊娠で赤ちゃんの血液(赤血球)がお母さんの血液に入ると、お母さんの体の中で赤ちゃんの赤血球を攻撃するたん白質(「**抗D抗体**」)が作られます。

何も対処しないでいると、次にRh(+)の赤ちゃんを妊娠した時、赤ちゃんの赤血球が抗D抗体によって壊され、お腹の中で貧血を起こしたり、生まれた後に黄疸を起こす可能性があります。

そのため、お母さんが抗D抗体を作らないように、妊娠中や出産後の適切な時期に、お母さんに「抗D人免疫グロブリン製剤」を注射することが勧められています。

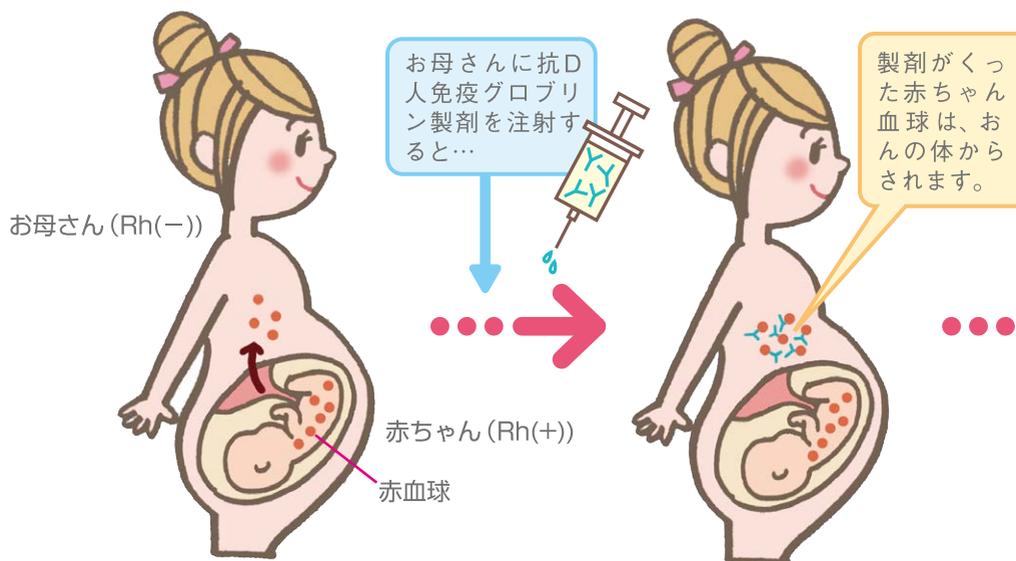


抗D人免疫グロブリン製剤にはどのような効果がありますか？

人間は、自分の体に自分以外のもの（異物）が入ってくると、異物を排除するための「抗体」を作る機能を持っています。

Rh式血液型不適合妊娠では、妊娠中や出産時にRh(-)のお母さんの血液中にRh(+)の赤ちゃんの血液（赤血球）が入った場合も同じことが起こり、D因子に対する抗体（**抗D抗体**）が作られます。

◆ Rh式血液型不適合妊娠における抗D人免疫グロブリン製剤の作用



妊娠中や出産時に、Rh(+)の赤ちゃんの血液（赤血球）がお母さんの血液に入ることがあります。

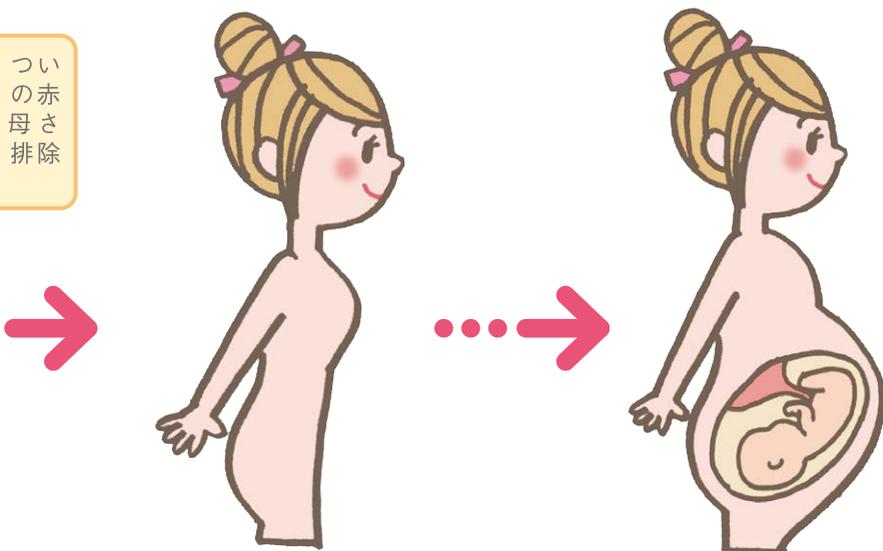
抗D人免疫グロブリン製剤を注射すると、お母さんの血液中の赤ちゃんの赤血球は製剤とくっつき、体から排除されます。

次に妊娠した時、抗D抗体は胎盤を通過して赤ちゃんの血液に入り、D因子のある赤ちゃんの赤血球を壊してしまいますので、赤ちゃんが貧血や黄疸などの症状を起こす可能性があります。

抗D人免疫グロブリン製剤は、適切な時期にお母さんに注射することで、お母さんの血液に入った赤ちゃんの赤血球を排除する作用があります。

赤ちゃんの赤血球がなくなるためお母さんに抗D抗体は作られませんので、次回もRh(+)の赤ちゃんを安全に妊娠・出産することができます。

ついでに
お母さんの
赤血球を
排除



赤ちゃんの赤血球がなくなるので、お母さんに抗D抗体は作られません。

次回もRh(+)の赤ちゃんを安全に妊娠・出産できます。

いつ抗D人免疫グロブリン製剤を注射しますか？

妊娠28週前後

妊娠29週以降になると赤ちゃんの血液(赤血球)がお母さんの血液に入り、抗D抗体が作られる可能性が高くなります。そのため、**妊娠28週前後**に抗D人免疫グロブリン製剤を注射して、抗D抗体ができないように備えます。

分娩後や妊娠中の検査・処置などの後

分娩時や、妊娠中に検査や処置を行った時、お腹を打った時などは、赤ちゃんの血液(赤血球)がお母さんの血液に入る可能性が高いため、72時間以内に抗D人免疫グロブリン製剤を注射します。

抗D抗体が作られる確率

抗D人免疫グロブリン製剤を妊娠28週前後と分娩後の2回注射すると、抗D抗体が作られる確率は0.1%程度になると言われています。



抗D人免疫グロブリン製剤を注射した後に 気をつけることはありますか？

副作用について

抗D人免疫グロブリン製剤で次のような副作用がおこることがあります。副作用が認められた場合、抗D人免疫グロブリン製剤の投与を中止するなど適切な処置を行います。

重大な副作用

頻度不明

ショック

その他の副作用

頻度不明

発熱、発疹等、疼痛、腫脹、硬結

- 以上の症状はすべてを記載したものではありません。
この他にも気になる症状があれば、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。

予防接種について

生ワクチン（麻疹・おたふく・風疹・水痘など）の注射を受ける場合は、抗D人免疫グロブリン製剤を注射したことを医師に伝え、3ヵ月以上経ってから受けてください。

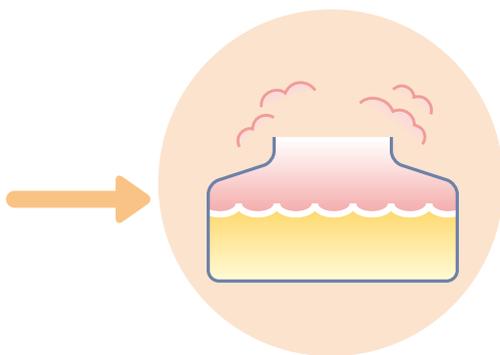
抗D人免疫グロブリン「JB」の 安全対策は？

抗D人免疫グロブリン「JB」は、人の血液の一部である「血漿」から作られていますので、人血液を原料としていることによるウイルスなどの感染のリスクを完全に否定することはできません。そのため、このお薬を作る時は、安全性を高める様々な対策を施しています。



採血時

供血者が肝炎やエイズなどの感染症にかかっていないか医師が問診を行います。採血した血液を検査して、肝炎ウイルスなどが入っていないかを確認します。



製造段階

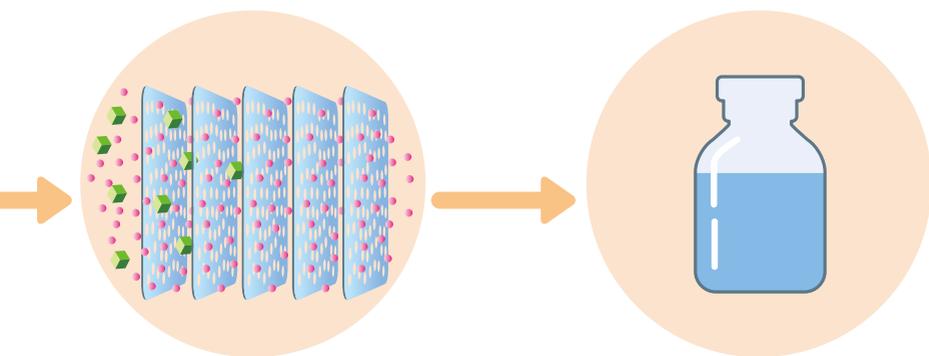
(液状加熱処理)

液体の状態です60℃、10時間加熱して、ウイルスを不活化します。

注射の記録と保管について

このお薬を注射したときは、病院であなたの氏名や住所などを記録し保存します。

この記録は、このお薬の注射によるウイルス感染などの保健衛生上の危害の発生または拡大を防止するために必要と認められる場合で、あなたや他の患者様の利益になるときに限り、医薬品会社などへ提供することがあります。



製造段階 (ウイルス除去膜)

非常に細かい目のフィルターを用いてウイルスを除去します。

確認試験

できあがった製品に肝炎やエイズなどのウイルスが入っていないことを確認します。

なお、現在までにこのお薬の注射によるウイルス感染は確認されていません。

抗D人免疫グロブリン「JB」を 注射された方には、「血液型記録カード」を お渡ししています。

「血液型記録カード」には、今後あなたが抗D人免疫グロブリン製剤の注射が必要になるケースが記載されています。
必要に応じて医師に提示できるように、大切に保管して下さい。

血液型記録カード (患者携帯用)

氏名 _____ (♀)

住所 _____

血液型 ABO 式 : _____ 型

Rh 式 : D 陰性 (Rho 陰性)

あなたはRh式血液型〔D(Rho)〕陰性であり、今回、抗D人免疫グロブリンの投与を受けました。今後、あなたが分娩する場合、あるいは流産後、中絶後、検査・処置後、腹部打撲後等でD(Rho)感作の可能性がある場合には72時間以内に本剤の投与が必要になります。また、妊娠28週前後にも本剤の投与が必要になります。

そのため、このカードを次回の主治医に必ずご提示下さい。

● 抗D人免疫グロブリン筋注用 1000 倍 「JB」

投 与 日 : _____ 年 月 日

病 院 名 : _____

主 治 医 : _____

